

アメリカの大学における歴史教育のチューニング

ユタ大学の歴史学専攻の事例から

主催 東北大学高度教養教育・学生支援機構 学際融合教育推進センター
「グローバル化社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」グループ

9月5日(金)

14:00～17:00 川内合同研究棟101(CAHEラウンジ)

近年、国境を越えた学生の学習を保証するために、世界的にチューニングの取り組みがあります。チューニングとは、それぞれの専門分野で獲得すべき知識、技能、能力と学習成果を共同作業で明確にし、教育プログラムを設計することを指します。欧州のポローニャ・プロセスにおいては、国際的通用性を明確にするコアとして位置付けられていますが、今や世界的に取り組みがあり、理工系分野に限らず、人文・社会科学系においても行われています。このたび、国立教育政策研究所が、アメリカ・ユタ州立大学歴史学部副学部長ダニエル・マキナー教授をお招きしたのを機に、歴史分野におけるチューニングのお話を伺うとともに、東北大学の歴史関係の教員が参加し、大学における歴史教育に何が期待され、どのような能力を育てるか、議論する機会を設けることにしました。教授が中心になって進めたチューニング・プロジェクトは、アメリカ歴史学会でも高く評価され、全米に広がっています。東北大学からは、有光秀行教授(文学研究科, ヨーロッパ史学), 小原豊志教授(国際文化研究科, アメリカ史)がディスカッサントとして参加します。逐次通訳も行われますので、歴史学に関心のあるかたは、ぜひご参加ください。

Session 1 : 講演 14:00~15:30

挨拶: 羽田貴史 (東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長, 教育史学)

報告: チューニングとは一目的, プロセス, 日本への示唆

深堀聡子 (国立教育政策研究所主任研究官)

講演: ユタ州立大学における歴史科目のコアとカリキュラム

ダニエル・マキナー (ユタ州立大学歴史学部副学部長・教授)

休憩

Session 2: パネル・ディスカッション 15:50~17:00

司会: 中川 学 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 人間総合科学教育室講師)

橘 由加 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育室准教授)

ディスカッサント: 有光秀行 (東北大学文学研究科教授)

小原豊志 (国際文化研究科教授)

討論: 16:20~17:00

閉会